

「コロナ禍における公民館活動」について
利用者団体アンケート結果

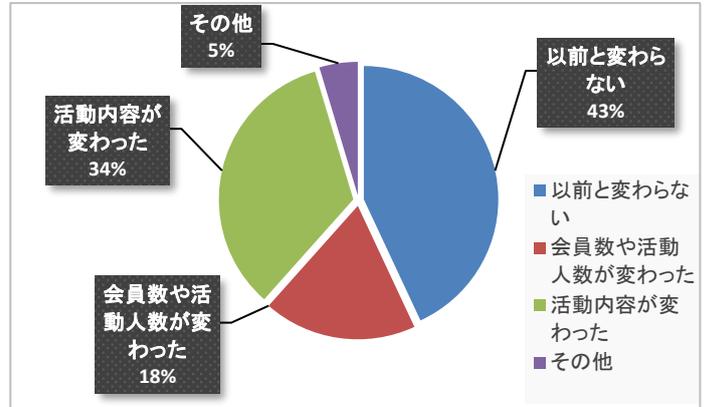
令和3年12月

塩田公民館運営審議会・塩田公民館

アンケート回収率 登録利用者団体67団体中59団体が回答

1 コロナ禍での団体の内容及び活動の変化について

区分	団体数	比率
以前と変わらない	28	43%
会員数や活動人数が変わった	12	18%
活動内容が変わった	22	34%
その他	3	5%
計	65	100%

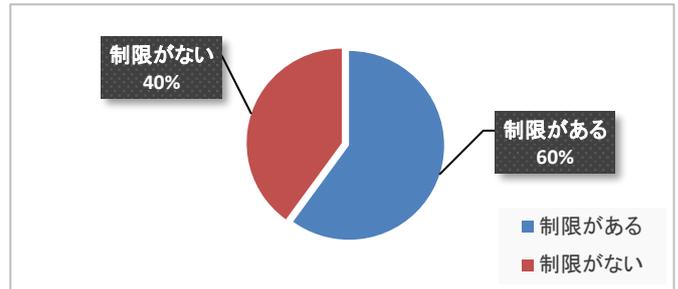


●その他の内容について

- ・会としては活動できていない
- ・職場から自粛要請が出た
- ・活動休止中

2 活動の制限について

区分	団体数	比率
制限がある	21	60%
制限がない	14	40%
計	35	100%



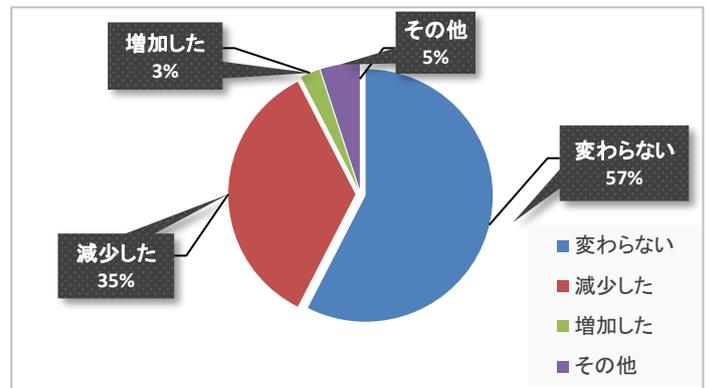
●活動の制限の内容について

- ・大きな声を出すことにより腹式呼吸で健康を維持するため
- ・一回の観劇の人数を減らし、2回に分けるなど回数を増やした。
- ・マスクを着けたままのため激しい内容の稽古ができない
- ・手を繋がらないで踊る。大きな声で話せない。ペアの踊りができない。
- ・試食できず持ち帰りになった
- ・ソーシャルディスタンスに気を使う
- ・コロナに関して個々の事情で活動できない
- ・多数で集まることに不安があった
- ・社交ダンスは手を繋ぐのが基本となるが、ソーシャルディスタンスが保てない。
- ・マスクを外せない。大きな声を出せない。
- ・ソーシャルディスタンスを保つため会場に入れる人数が制限を受ける。バス利用ができない。
- ・人数が多すぎるため集まることをためらった。

- ・調理するのにソーシャルでいづダンスを取ることが難しい。
- ・声を出さないわけにもいかない。衛生面でも相当の神経を使う必要がある。
- ・その場で飲食ができないため、お互いの感想等を述べ合うことができない。
- ・声が出せない。触れ合ってダンスができない。マスクによる息苦しさ。
- ・郷土料理や菓子類の調理をかつどうないようから外した。また、弁当や持ち寄りの漬物などの交流ができない。
- ・歌唱を伴うレクリエーションの提供が制限されてします。
- ・マスクを着けて人との間をあけて行。開始直前に集合して、開始前、休みの時間に交流が持てない。
- ・子ども同士、この字型や炉の字型に机を並べて教えあうことがあったが、今はできない。
- ・休憩中大きな机を囲んで交流していたが中止している。
- ・参加者が少ないので問題ない
- ・飲食ができないため昼食が取れない。料理系の活動ができない。
- ・ソーシャルディスタンスを取るため手を繋げない。皆で明るく元気に踊りたいができない。
- ・間隔を取りマスクをして笑いヨガをしています

3 会員数や活動人数の変化

区分	団体数	比率
変わらない	23	58%
減少した	14	35%
増加した	1	3%
その他	2	5%
計	40	100%



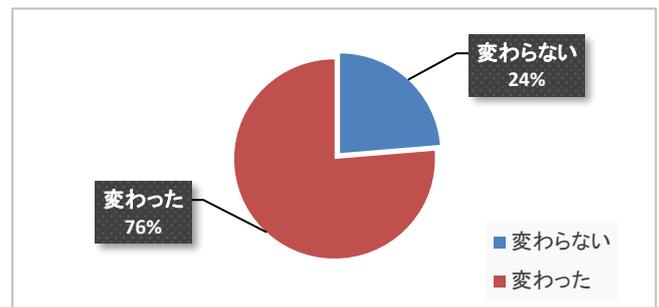
●会員数や活動人数の変化した内容について

- ・コロナで約2年間教室が開かれなかったことと会員の高齢化
- ・会員数が46人から34人に減少。コロナによる。
- ・コロナにより自粛期間がありそのまま何人か辞めてしまった。
- ・高齢の方が休会になった。会員数が15から12に減少。
- ・会員数の変化は少ないが、活動する人数が減少している。
- ・公民館活動としては全くできていない
- ・コロナのため活動ができなかった。会員の転居や死亡。
- ・会員数は変わらないが、車いす利用者には持病のある人や施設に入所していて、週末だけ自宅に戻って練習に参加していた人が、帰宅しても外出が禁止される等の理由で練習に参加できなくなった。

- ・活動休止中
- ・昨年 62 人から今年初め 51 人、その後 2 人退会。（活動できないことへの不満、感染への不安）
- ・20 名弱から 10 名前後に減少。コロナの影響により医療従事者や感染を案じた家族の反対があり参加できないメンバーがいる。
- ・コロナのため減少した。
- ・コロナにより本人や家族のために自粛する方がいる。
- ・コロナが落ち着いて出てくる方もいた。
- ・活動人数が減った。
- ・人が集まる場所への参加が禁止されている会員がいて、参加ができなかった。しばらく参加していないとなんとなくそのまま休みが続いてしまった。
- ・死亡による。
- ・職場から感染防止のため自粛要請がされた。家族が県外へ出張があるため自粛
- ・親子で 15 組まででしたが 5 組で入れ替えや 7～9 組へ減少している

4 活動内容の変化

区 分	団体数	比率
変わらない	9	24%
変わった	29	76%
計	38	100%



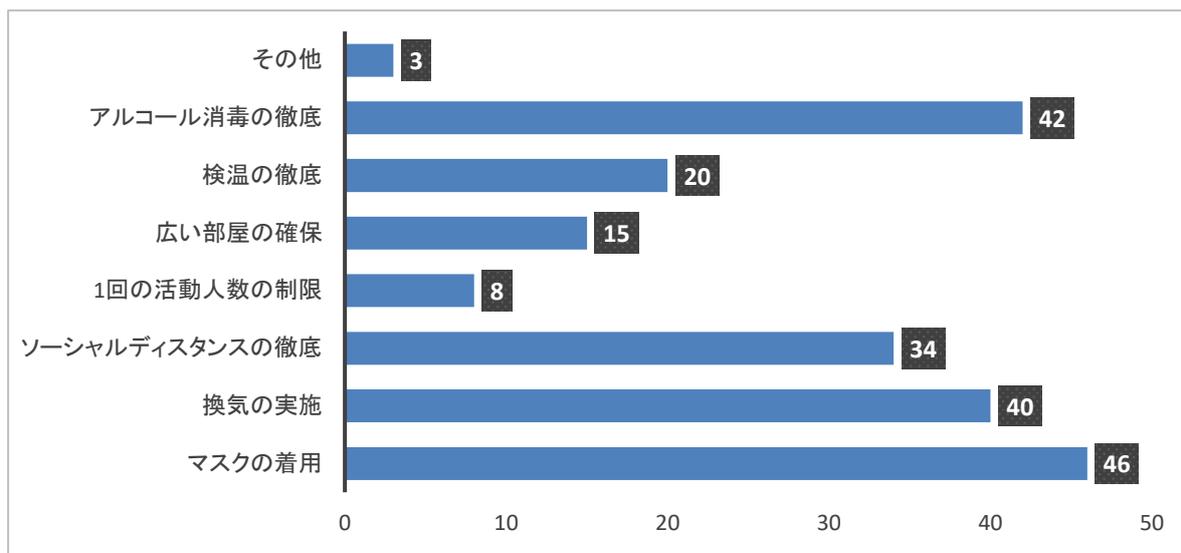
●活動内容の変化について

- ・感染状況により、活動を休止したり、回数を減らした
- ・活動が休止になった
- ・活動休止が多くなった。大きな声を出せなくなった
- ・レベルが高いときは活動中止した。
- ・密にならないような活動となった。
- ・毎月 2 回の活動。コロナ禍でもただ希望をもって練習している。
- ・作った料理を持ち帰って食べるようになったので、活動時間が短くなった。
- ・会館以外の場での交流がなくなった
- ・実質活動休止
- ・活動を休止した
- ・活動休止になった。
- ・活動を休止した。
- ・毎月 1 回の活動を 8 月まで休止した。

- ・活動休止となった
- ・飲食禁止のため、料理の品（内容）に制限が出る。品数を減らしたり、汁物を減らしている。
- ・感染レベルが高い場合活動休止になる。
- ・会場が小ホール以上なら良いが、それ以外だとやや狭い感じがする。
- ・月1回の学習会は感染状況により休止する機関があった。
- ・活動時間を少し短くした。
- ・感染警戒レベルが5になった時は活動を休止した。途中でおやつを食べて交流していたが中止している。
- ・毎月2回が中止にした
- ・活動休止が多くなった
- ・参加者が減り活動回数が減った。
- ・講師に来てもらえないため指導してもらえない（自主活動で復習会としている）。月4回の活動が2回になった。ソーシャルディスタンスを取るため非常に踊りづらい。会員同士の交流が減った。マスク着用での踊りのため苦しかったり暑くなる。
- ・昼食が館内で取れないため時短にした
- ・月3回活動していたが月2回にした。レベルが上がった時点で休止にした。
- ・警戒レベルが高いときはオンラインにしたり中止したりした。
- ・総会等設定が不可となった。会合が減った。どうしても消極的になってしまう
- ・活動回数を減らす（年間16回から10回に減少）。窯焼きも通常春1回秋1回だったが、1回のみにした。
- ・他のママさんや子供同士のわらべ歌遊びやふれあいの減少

5 感染予防対策で工夫していること

区 分	団体数	比率
マスクの着用	46	22%
換気の実施	40	19%
ソーシャルディスタンスの徹底	34	16%
1回の活動人数の制限	8	4%
広い部屋の確保	15	7%
検温の徹底	20	10%
アルコール消毒の徹底	42	20%
その他	3	1%
計	208	100%



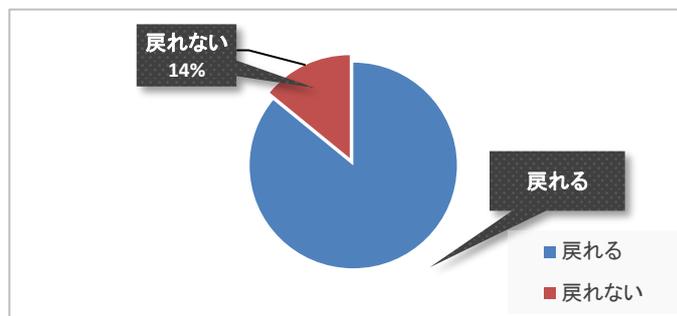
6 コロナ禍での活動において工夫したこと、していること

- ・常に感染状況に気を配り、講師と常に連絡を取り合い、無理をしない活動を心がける
- ・全員で声を出すことを止め一人ずつの発声とした
- ・ZOOMでの会合実施
- ・短時間で終了するようになった。美術展覧会等で外に出ることが増えた
- ・机を一人1台にして間隔を離れた。消毒、換気
- ・一回の参加人数を減らし数回に分けて活動した。畑の作業後、外での会合を設けた
- ・感染レベルにより活動を休止した。
- ・活動の自粛
- ・お茶をペットボトルにした。
- ・活動人数の制限、マスクの着用、練習日の減少、手指消毒、換気
- ・窓や入り口を開放、人との間を1m以上取る、マスクをして歌う、検温・手指の消毒
- ・マスクの着用、換気の実施、ソーシャルディスタンス、手指消毒の徹底。自分自身が気を付ける。
- ・ソーシャルディスタンスと1局ごとに手指消毒
- ・体調のすぐれない会員の参加を控えてもらう。
- ・今年度は休止。来年度は検討中
- ・高齢者が多いため無理でした
- ・長机に一人ずつ座るようにした
- ・コロナ禍に合わせ活動回数を減らした。語りの会の参加人数を決め、他の場所での映像を見てもらう
(現場散会外) 三密を避ける、マスク、消毒等を徹底し、会の例会は可能な限り平常をと考えて活動
- ・特に人と人との間をあけ、マスクは必ず、雑談を控える。必ず換気をする。
- ・一番感染者の多かった期間は、2回に分けて(2回部屋を取って)少人数で実習した。

- ・公民館が休みのときはオンラインにした。
- ・月2回、3会に分かれて練習日を設けて活動している
- ・窓の開閉を行う。マスクの着用。
- ・メール連絡などの配信を多くしたり、ブログで活動内容を紹介。定期的な通信も、今までより内容を詳しくして発送するなど
- ・換気に気を付けて、マスク着用、手指消毒を実行
- ・人と接触する場面や時間を減らした。
- ・活動する部屋を複数確保し、小学生と中学生に分けた。一つの机に1人として物理的な距離をとるようになっている。
- ・オンラインの案内を出したが、なかなか受けてもらえなかった。
- ・マスクの着用、部屋の換気、人との間を十分にとる
- ・月4回を月2回に減らした。時間を短縮した
- ・レベル3になった時点で休止した。数か月も練習できないことがあった。コーラスなのでマスクはもちろん、ソーシャルディスタンスに気を付けた
- ・野外やオンラインで活動した
- ・役員会を減らした
- ・5月から9月まで休み
- ・講師からのここに対しての直接触れての指導がなくなった
- ・陶芸教室の活動回数(は通常だと16回でしたが今年度hが「4月～8月までで10回でした。
- ・公民館の閉館期間中は活動をしていない。そのほかの期間は通常通り。マスクの着用、ソーシャルディスタンス、アルコール消毒等に気を付けた
- ・広い部屋を確保し換気する。座布団を置く距離を今までの2～3倍に広げた

7 コロナ前のような活動に戻れるか

区分	団体数	比率
戻れる	49	86%
戻れない	8	14%
計	57	100%



●コロナ前のような活動に戻れないと思う理由

- ・会員の高齢
- ・コロナが終息とならない限り、何年かは戻れない。
- ・高齢者が多いため、いったん人との交流を控えた人が戻ってくるかは疑問
- ・多数での講演会、刑が買いなどはいつ再開できるかわからない

- ・会員数の減少。感染の不安が完全になくなるかが疑問。
- ・一度離れた人は戻ってこない
- ・様々な工夫アイデアを凝らして
- ・来られなくなった人が数人いる。会全体が高齢化している。
- ・一度辞めた方はなかなか戻らない。新たなメンバーを探して継続していくことを考えたい。

8 塩田公民館での事業について

●コロナ禍での要望

- ・集中する時間を皆さんと過ごしたい
- ・土づくり講座、NHKの趣味の園芸のような。VTRと座学を組み合わせさせてほしい。
- ・講演会や講習会を活発に実施してほしい。
- ・子どもたちがお金の勉強になる講座を実施してほしい。『お金の大学』という書籍をおいてほしい。
- ・美容、ヨガなどの講座
- ・どんなウイルスが流行っても、萎縮せず皆が基本的な予防を守って活動ができることを願う。
- ・地元の歴史、文化のレクチャー
- ・川柳の講座を開催してほしい
- ・語学、川柳、手芸等の講座
- ・SDGsについて個々人が心がけられること、実践できる具体的方法、普段気づかないところできる身近なことで
- ・練習日は依然と変わらず対面練習をしている。
- ・高齢者が多いので現在のまま講座できることを楽しみにしていこうと思います
- ・感染状況に応じた対応を常に検討、模索しながら工夫してくださり感謝です。高齢者の気軽に出ていける場づくりに協力できたら幸いです。
- ・「コロナだから中止」にするのではなく「どうすればできるか」を考えてほしい。
地域の祭りなどの行事も中止・延期が続き、継承できるか危ぶまれる。地域にある魅力的な行事、場所、人などについて公民館からも発信していただきたい。
- ・防災関係の講座、災害時の食料品や生活必需品などの講座
- ・生の音楽を聴きたい。
- ・育児やママのスキルアップ講座など
- ・回数が少なくなった分自宅で作業することが多くなった。
そのため、かえって作品数が多くなり、1回の焼きでは全部を消化できなかった。窯焼きの時もソーシャルディスタンスを徹底し、2名で火の管理を行った。早く元に戻ってほしい。

●オンライン講座について

アンケートの結果では、オンライン講座を望むと回答した利用者団体は極めて少なく、パソコン操作ができないことが望まない大きな理由ではあるが、公民館には、ふれあいや、つながりを求めて来ている場合や居場所として利用している場合も多いのではないだろうか。

- ・オンラインも考えたがやはり会うことが赤ちゃん同士のふれあいであり、ママたちも元気につながることを感じました。
- ・行く場所があって救われている人もいる。
- ・80歳以上が多数のためPC使用は少数であり、オンライン講座等は難しい。
- ・会員のうち半分以上環境がないのでオンライン講座は望まない。
- ・インターネットは見ることは可能。高齢の会員のためPC操作できる人は半分もいない。
- ・高齢者には厳しい
- ・PC操作できる人が少ないため無理です
- ・聴くだけ、見るだけの講演のような講座であればオンラインでもよいと思う。双方のやり取りが必要な場合、多人数は難しいのでは。
- ・オンライン講座までは望まない
- ・高齢者が多くオンライン講座は無理である。
- ・スマホで調べるので大丈夫
- ・体操をオンラインで流して、自宅で体操をしたい
- ・これからはオンライン講座もよいと思う。
- ・あまり希望しない。
- ・オンライン講座は苦手
- ・高齢者が多いのでオンライン講座には参加できないと思う
- ・環境はあるが、特に要望はない。
- ・可能
- ・対応可能

●オンライン環境について

公民館利用者の高齢化等も影響してか、インターネットの環境があると答えている団体は20%にも満たないほどで、さらには、あると答えた団体でも全員が環境があるわけではない。また、環境が整っていても利用・活用ができない。利活用のための勉強会が必要。

- ・メンバー全員がインターネットを見られる環境にない
- ・ある
- ・環境不足。各家庭に環境を備えてから考えてください。

- ・インターネット環境はある
- ・インターネットはあるが、自宅で受講したことがないのでよくわからない。
- ・会員全員がインターネットを見られる状態でない。
- ・環境はある。
- ・受講できる環境あり。
- ・インターネット環境はある
- ・オンライン講座を受講できる会員は数人しかいません。
- ・高齢者が多くオンライン講座を受ける環境がない人が多い。
- ・自宅で受講できる環境がない
- ・インターネット環境がない
- ・整っていない環境が多いと思う。
- ・受講できる人もいるが、できない人もいる。
- ・インターネット環境がない
- ・インターネットを見られる環境はある
- ・そのための勉強会をしないと無理です

9 施設管理・運営についての要望

現在の対応・対策を継続することでよいとの意見が多かった。
 施設については、アクリル板、空気清浄機、トイレの便座の消毒液等の設置の要望、事業については、文化祭の開催要望などがあった。

- ・和室の畳のごみが衣服について困る。変えてほしい。
- ・便座の除菌液を設置してほしい。
- ・各部屋、テーブルにパネルを置けると良い。
- ・来年度は、文化祭をぜひ実施してほしい。
- ・今まで通り予防対策を緩めず運営してほしい。
- ・閉館の可能性や閉館の時 HP に掲げてほしい。
- ・冷暖房費の 100%減免を継続してほしい。
- ・現状の対策を利用者が自分のこととして、厳守していくこと。(要望ではない)
- ・状況により人数制限を緩和してほしい。
- ・大ホールの塵取りがごみでいっぱいになっている。掃除機が欲しい。
- ・消毒・検温などの徹底の呼びかけ。
- ・玄関での測定器の導入

- ・公民館予約のオンライン化
- ・トイレに便座の消毒液が欲しい
- ・空気清浄機の設置
- ・ワクチン接種会場となった時など利用できるかが不明なことがあった。混乱が少なくなることを望みます。
- ・雑巾の洗浄、朝のふき掃除等ご苦労が多く感謝。
- ・充分。ありがとうございます。
- ・従来そのままでもよい。土日に職員がいてほしい。
- ・日頃から「いろいろ準備していただいているので特になし。
- ・現行継続
- ・現在の対策でよい
- ・現在の対応の継続
- ・公民館の運営に従います。ご苦労様です。
- ・これまで通りの対策でよいと思う。今後はこれ以上の対策が必要になるのかとも思う。
- ・特になし。施設管理・運営、コロナ対策についてお任せします。
- ・今のままでよいと思う
- ・感謝しています。
- ・今まで通りで。
- ・感謝しています。
- ・毎月定められた曜日に大ホールの使用をお願いしましたが、ほとんど使用させてもらえません。城南公民館のように定期的に使用させてもらいたい。